



もんま 門馬 まりえ 議員

広野火力

発電所の新たな展望は？

町長／事業継続を積極的に求める

門馬：町長は今回の選挙戦を通しJERA広野火力発電所の存続が大きな課題であり、国や事業者に対し存続堅持できるように提案していくとっております。

前町長と議会はJERAに対し、合意要望を通して、廃止となる1から4号機の跡地利用の検討を強く求めてきました。また、前町長は2年前の廃止措置に至る以前より、情熱

町長：町のリーダーである町長は、自分の任期のみならず、町勢振興計画の10年先よりさらに先の30年後、50年後を見据えて長期的かつ明確なビジョンを持ち、「町民を幸せにする」ために、そのビジョンを町民にしっかりと示すべきであると考えています。

私が考える「町民の幸せ」とは、30年後も広野町が単独で行政運営を行い、町民の誰もが歴史と伝統を重んじ、豊かで誇り高い生活を送れることです。

そのためには、町の税収の多くを占めるJERA広野火力発電所の存続は最重要課題です。私は、町民の働く場を守るためにも、燃料転換、発電効率のイ

ノベーションを起こす事業の実用化など、火力発電所の事業継続について、国・県及び関係団体に対し積極的な要望活動を行う考えです。

一方、事業者に対しては、あらためて担当者間における信頼関係を構築し、普段から情報交換を行える環境を整備します。

半世紀にわたる広野火力発電所の歴史を振り返り、広野火力発電所を誘致した当時のように、町民はもとより町当局並びに町議会が一体となって地元の熱意をお伝え出来るよう、誠心誠意取り組んでまいります。



広野火力1～4号機の煙突

役場改革

業務効率化の進め方は？

町長／課・係の統廃合を検討

高木：町長は「改革」を掲げて当選されましたが、その実行の基礎となるのは、役場職員的能力発揮と組織力の向上に他なりません。そこで、業務の効率化をどのように進めるのか伺います。

高木：職員の意欲向上（やる気・働きがいの醸成）に向け、どのような施策を講じるのか伺います。

町長：30年先のスパンでまちづくりを考え、明るい未来への展望、ブランドデザインを示し、改革の先頭に立って職員を鼓舞し、信頼関係を築き、職員が同じ組織目標を共有することで、閉塞感のある役場組織を改革し、町民の皆さんから信頼され、住民ファーストの対応ができる、充実した仕事ができる環境の醸成に繋がるものと確信しています。



たかぎ 高木 みつお 議員

意見を町政に反映

対話のしくみは？

町長／方部別の住民懇談会を実施

高木：選挙期間中、「町民との対話を重視する」「若者が意見を言えるまちにする」と公約されました。町民全体との対話をどのような方法で進めていくのか伺います。

高木：若者の声をどのような仕組みで町政に反映させるのか伺います。

町長：広野町では、SNSを活用し、イベントや各種行政情報について、情報発信を行っています。

町長：町民の皆様一人ひとりの声に真摯に耳を傾け、現場の目線でアイデアを出し合い、広野町の未来を作り上げたいと考えています。対話につきましては、地区集会所を活用した方部別の住民懇談会の方式に変更し、町民との対話に取り組んでいきます。

若者の声につきましては、町インスタグラムからのビジネスチャットや町ホームページのお問合せ専用フォームを活用し、双方向により若者の声を取り入れてまいります。

企業誘致

農業経営の安定化策は？

町長／専門部門を設置する

高木：農業振興につながる企業の誘致や、農業経営の安定化に取り組みと訴えています。そこで企業を誘致するにあたり、どのような対策を講じるのか伺います。

町長：地域の農業と結びつけて新しい産業を起す企業を誘致し、基幹産業である農業を活性化させます。産業振興課内に専門部門を設置し、農家、生産者の窓口とします。

選挙後のまちづくり

町民全体の融和は？

町長／町民との対話を基本に

高木：今回の選挙では、必ずしも政策が十分伝わらなかつた町民も含め、町民全体の融和をどのように図り、町を一つにまとめていくのか、その方針を伺います。

町長：町民との対話を町政の基本に据え、町民の幸せの実現に向けた施策を通し、町民全体の融和に全力で取り組んでまいります。